

## 歯周病のスクリーニング検査

### 高柴 正悟

日本口腔検査学会 理事

岡山大学 学術研究院 医歯薬学域 教授

(大学院医歯薬学総合研究科 医歯薬学専攻 歯周病態学分野)



### <略歴>

1986 岡山大学歯学部卒業

1990 岡山大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）

1990 - 1992 岡山大学助手（歯学部附属病院）

1992 - 1994 米国イーストマンデンタルセンター研究員

1994 - 1995 岡山大学助手（歯学部）

1995 - 2001 岡山大学助教授（歯学部，改組後大学院医歯学総合研究科）

1996 文部科学省在外研究員（米国 USC および NIDCR）

2002 岡山大学教授（大学院医歯学総合研究科，改組後大学院医歯薬学総合研究科）

2021 - 現在 岡山大学教授（組織改編に伴い学術研究院 医歯薬学域 に所属名称変更）

日本歯周病学会 常任理事（研究委員会委員長）

日本歯科保存学会 理事

日本口腔検査学会 理事（学術研修委員会委員長）

日本未病システム学会 理事

日本予防医学会 理事

International Academy of Periodontology President

特定非営利活動法人 歯科ネットワーク岡山から世界へ（DNOW） 副理事長

### 抄録

厚生労働省資料の「歯周病罹患の現状と対策について」によると，35歳～69歳の約70%が歯肉に所見がある歯周病を指摘され，4mm以上の歯周ポケットを有する「進行した歯周病を有する者」は35歳～64歳の約50%弱と報告されている。本格的な治療を必要とする成人は約30%との感覚があるが，沈黙の疾患である歯周炎の初期にスクリーニングすると，包括的な歯周病治療を回避でき，さらに歯周炎が影響する内科的疾患を軽減できる。まさに，国民皆歯科健診に価値が出てくる。今回は，歯周病の検査を4観点に分類し，それらの中からの国民皆歯科健診にふさわしいスクリーニング検査を考える。